

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン
福祉分野別計画 進行管理表

- 児童・子育て支援 1～3
- 障がい者福祉 4～6
- 高齢者福祉・介護支援 7～9
- 地域づくり 10～12

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	子育て世代が孤立しないまちづくり			
課題	子育て相談、支援に関する情報提供	・健診や育児相談会、保健師や助産師による訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報提供や相談の場をつくる。	①	多様な手法による子育て情報発信
	子育て支援制度の充実	・情報誌やホームページの活用によって情報を提供する仕組みを構築し、子育ての相談、支援に関する情報提供を強化する。	②	子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくり
	同世代の親同士の意識づくり	・乳幼児健診の場を、子育ての相談や仲間を見つける機会として活用する。	③	訪問・相談事業の強化

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場各12回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児各400回	産婦 401回 新生児等 544回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場各12回	A	27 ~ 32
②	NPプログラムの開催(「Nobody's perfect」の略で、「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	2回, 24人	2回, 24人	A	27 ~ 32
②	BPプログラムの開催(初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課 児童館等	開催回数・参加者数	未定	4回, 80人	4回, 45人	B	27 ~ 32
②	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる、子育て中の親子が気軽に参加し、支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	30回, 750人	33回, 594人	B	27 ~ 32
②	子育て講座等の参加者同士の繋がりを深めることができるようフォローする(子育てサロンの開催)	公民館, 南区健康福祉課	開催回数	未定	月1回	22回(5月以降月2回)	A	30 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○子育て相談・支援に関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供した。 <p>○子育て支援制度の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPプログラム、BPプログラム、子育て広場等を実施したり、健診時には悩みを相談できる場を作って、母親が孤立しないよう支援できた。 <p>○同世代の親同士の意識づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診や育児相談会等を仲間づくりの場として活用できている保護者も多い。NPプログラムやBPプログラムに参加した方からは、「参加してよかった」という声が多く、同じ月齢の親同士のよい関係ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南区の事業としてのBPプログラムは終了したが、児童館で開催されるBPプログラムへの参加を促すなど、今後も育児不安や孤立感の解消を図る活動を支援していく。 ・子育て広場の参加者が目標を下回っているため、参加しやすい魅力ある内容を検討するとともに、PRを行っていく。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域で支えるゆとりを持った子育てができるまち			
課題	父親や家族の育児への参画	・子どもを連れて参加できる地域活動を増やすなど、親しい関係をつくる。 ・子育て関連の講座の開催にあたっては、保育付きの機会を増やす。 ・ボランティアの育成と活動を支援する。	①	子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくり
	地域からの声かけによる育児支援		②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
	子育てサロンやサークル活動などへの支援		③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	NPプログラムの開催 (「Nobody's perfect」の略で、「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数, 参加者数	未定	2回, 24人	2回, 24人	A	27 ~ 32
①	BPプログラムの開催 (初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課, 児童館等	開催回数, 参加者数	未定	4回, 80人	4回, 45人	B	27 ~ 32
①	サロン交流会 (子育て中の親子の不安やストレスの解消, 情報交換の場として気軽に集うことのできる「親子の居場所」を支援し, 活動費の一部を助成するもの。)	南区社会福祉協議会	開催回数, 参加団体数	未定	年1回	1回実施 4団体	B	27 ~ 32
①	子育て広場交流会の開催	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数, 参加人数	未定	1回15組×2回	2回, 30組	A	27 ~ 32
①	安産教室への父親参加を継続, 家族・地域で子育てにつなげる	南区健康福祉課	開催回数	未定	1クール3回×年3回	1クール3回×年3回	A	27 ~ 32
			父親参加人数	未定	15人×3回	延べ37名(3回)	B	27 ~ 32
②	各地区の多世代交流事業の開催	各地区	各地区別計画で管理, 評価	未定	未定			27 ~ 32
②	子育て講座等の参加者同士の繋がりを深めることができるようフォローする(子育てサロンの開催)	公民館, 南区健康福祉課	開催回数	未定	月1回	22回(5月以降月2回)	A	30 ~ 32
③	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる, 子育て中の親子が気軽に参加し, 支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数, 参加者数	未定	30回, 750人	33回, 594人	B	27 ~ 32
④	子育て支援リーダーの育成	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	支援リーダー数	20人	1人増	20人	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等	評価指標
<p>○父親や家族の育児への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> 年3回の安産教室に、各回定員15人のところ、1回あたり平均12人の父親参加があり、育児への参画の第1歩となっている。 安産教室や健診等を利用して、父親や家族の育児参加があった。 <p>○地域からの声かけによる育児支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援リーダーによる子育て広場は、参加者から高評価を得ており、子育てへの不安解消につながっている。 <p>○子育てサロンやサークル活動などへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> サロン交流会では体操や茶話会を通して親子の交流を図った。また各サロンの活動紹介や子育ての悩みを相談できる場所について情報共有を行った。 各サロンの紹介を子育て支援センター・児童センター等に掲示し、周知を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て広場などの事業を継続して実施できるように、子育て支援リーダーやボランティアを確保・維持していくことが課題となっている。 育休後の職場復帰等でサロン継続が困難な団体が増え、サロン数は減少傾向にある。サロン同士の交流だけではなく、子育て支援センターとの連携が必要。 子育てサロンに参加していない親子へも交流できる場が必要。子育て支援センター、児童センター等と連携し、親子が参加できる場の提供を検討する必要がある。 	<p>評 価 指 標</p> <p>A 概ね90%達成</p> <p>B 概ね75%達成</p> <p>C 概ね50%達成</p> <p>D ほとんど実施せず</p>

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	小項目	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
安心して子育てできるまち	子育て支援施設・事業の充実	・育児についての悩みの相談・支援体制を強化。 ・保育園の園開放や児童館のイベントなどを通じて情報発信に努め、保護者同士の交流会の機会をつくる。 ・中高生を対象とした思春期教育により正しい知識の定着を図る。	①	子育て中の親同士の交流促進, ネットワークづくり
			②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
			③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー, ボランティアの育成と活動の支援
課題	子どもに関する悩みについてアドバイス		⑤	児童館・子育て支援センターによる子育てネットワークの構築
	子どもが安心して遊べる環境		⑥	訪問・相談事業の強化
	子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分		⑦	中高生を中心とした思春期教育の推進

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	健診や育児相談会, 訪問などの機会を利用し, 子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場 各12回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児 各400回	産婦 401回 新生児等 544回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場 各12回	A	27 ~ 32
②	子育て広場の交流会の開催	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数, 参加人数	未定	1回15組×2回	2回, 30組	A	27 ~ 32
②	子育て講座等の参加者同士の繋がりを深めることができるようフォローする(子育てサロンの開催)	公民館, 南区健康福祉課	開催回数	未定	月1回	22回(5月以降月2回)	A	30 ~ 32
③	ファミリー・サポート・センターによる子育て世帯の支援, 事業PR	南区健康福祉課 南区社会福祉協議会	登録者数, 提供会員数	未定	登録者数60 提供会員数30	登録者数98名 提供会員数27名	B	27 ~ 32
④	既存の保育サービスの拡充と新たなサービスの検討	南区健康福祉課		未定		臨時保育士3名増員 保護者の登降園記録の負担軽減	A	27 ~ 32
⑦	思春期教育の実施	南区健康福祉課・中学校・高校	開催回数	未定	高校1回 中学校8回	高校1回 中学校 8回	A	27 ~ 32
			参加人数	未定	高校 80人 中学校 400人	高校 62人 中学校 487人	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
○子どもに関する悩みについてアドバイス ・健診や育児相談会, 訪問などの機会に育児支援を強化できた。 ○子どもが安心して遊べる環境 ・児童館や子育て支援センターの利用者から直接意見をいただき, より利用しやすい環境整備に努めた。 ○子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分 ・健診や育児相談会, 訪問などの機会に周知している。区社協だより, ホームページにて事業及び説明会の周知を行った。	・健診や新生児訪問は, ほぼ全員に実施しているが, 育児相談会や子育て支援センター等は希望者のみの参加となっており, 相談できずに一人で悩んでいる人がいないよう取り組み内容を検討していく。 ・ファミリーサポートセンターは, 登録者数は増加したが, 提供会員数が減少している。事業の内容・必要性を分かりやすく伝える必要がある。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	福祉サービス利用の相談体制充実		番号	内容
課題	相談支援事業者等の周知	・関係する専門機関が情報を共有し, 相談する人の立場に立った相談や情報の提供が図られる相談支援体制の推進 ・行政や社会福祉協議会等の広報を利用して, 相談窓口の周知	①	相談支援事業の強化
			②	基幹相談支援センターの充実
			③	多様な手法による障がい福祉制度の周知

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
③	区だより掲載	南区健康福祉課	広報掲載	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
③	社協だより掲載	南区社会福祉協議会	広報掲載	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
①②	相談支援に関する研修会開催	南区健康福祉課, 基幹相談支援センター秋葉	実施数	5回	1回	1回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の南区だより(11/4号)及び, 区社協だより(9/23号)に障がい者基幹相談支援センター秋葉の利用を周知しました。 ・幼保育園及び, 小中学校関係者を対象にした研修会において障がいに関する困りごとの相談窓口の周知を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知を図っていききたい。

評	A	概ね90%達成
価	B	概ね75%達成
指	C	概ね50%達成
標	D	ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	障がいのある人と地域が交流できるまち		番号	内容
課題	地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくり	地域で行われているまつりやイベントなどの交流の場に障がいのある人が積極的に参加できるように地域住民が呼びかけるなど、受け入れ環境の整備の推進	①	民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会やコミュニティ協議会及びその他の団体との連携強化
			②	小中学校の支援学級に対する情報提供
			③	精神障がいについて受け入れ環境の整備

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①②	南区自治協議会、校長会へ情報発信	南区健康福祉課	情報発信数	6回	1回	校長会等1回	B	27～32
①	地区社会福祉協議会行事への参加依頼	南区社会福祉協議会	情報発信数	6回	1回	1回	A	27～32
③	心の健康づくり講座	南区健康福祉課	開催回数	6回	2回	2回	A	30～32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の園長先生、小中学校の校長先生や教頭先生が参加する、関係機関合同研修会を機会とし、情報発信を行いました。 ・地区社会福祉協議会行事については、大通地区で障がいの理解のための研修会を開催し、発達障がいの理解を深めました。 ・心の健康づくり講座については、①10/25に一般向け講座、②12/14に思春期向け講座と2回開催し、精神障がいについての理解を深めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が地域の行事に参加できるよう継続的に働きかけを行う必要がある。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	自立支援体制の充実		番号	内容
課題	地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進	南区障がい者地域自立支援協議会や南区地域福祉ネットワーク会議を通じ, 関係機関における情報共有を進めることで, 生活課題の早期発見や早期支援に努める	①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営
			②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営
			③	障がい児関係者合同研修会の開催

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営	南区健康福祉課	開催回数	24回	4回	4回	A	27 ~ 32
②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営	南区保健医療福祉のつながりを深める会	開催回数	12回	2回	2回	A	27 ~ 32
③	障がい児関係機関合同研修会	南区健康福祉課	開催回数	3回	1回	1回	A	30 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<ul style="list-style-type: none"> 地域の障がい者の関係する関係機関から構成される「南区障がい者地域自立支援協議会」を4回開催し, 地域課題の解決に向け取り組みました(①5/18②8/17③11/16④2/15)。 南区地域福祉ネットワーク会議においては, 9/1に研修会, 2/10に公開講座を開催し, 顔の見える関係づくりに取り組み大勢の方にご参加いただきました。 幼保育園, 及び小中学校関係者を対象にした「障がい児関係機関合同研修会」を開催し, 顔の見える横のつながりを目標に課題解決に向け情報を共有しました(6/28)。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も顔の見える関係づくりを継続して取り組む。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齡者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	高齡者・介護者を支えあうまちづくり	地域で緩やかな見守りができるような取り組みづくりと高齡者・介護者の支援体制の周知	①	地域全体で高齡者を見守る体制の構築
課題	地域力の弱体化(人間関係が希薄になり, 隣近所の様子がわからない)		②	高齡者の相談窓口「地域包括支援センター」の周知
	地域包括支援センターの認知度		③	介護者の支援
	介護教室の参加人数		④	地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	緩やかな見守りを行う取り組み支援	健康福祉課・南区社会福祉協議会・地域住民等	地域支援数	地域に合わせた支援	要望の数	要望の数	A	29 ~ 32
②	高齡者・介護者支援体制の周知(地域包括支援センター・介護教室)	健康福祉課 包括介護教室受託事業所	発信数	行事の度	行事の度	行事の度	A	27 ~ 32
③	介護教室の受託事業所の開拓	健康福祉課	委託事業者数	1ヶ所～3ヶ所	3ヶ所継続	3ヶ所	A	27 ~ 32
④	区・圏域ケア会議を利用したネットワークの支援	健康福祉課 包括	開催回数	毎年開催	区域 2回 各圏域 1回	区域 1回 各圏域 計5回	B	27 ~ 32

特記事項:高齡者福祉・介護支援分野の小項目「高齡者の閉じこもりや孤立防止」については, 地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等	評価指標								
<p>○地域力の弱体化(人間関係が希薄になり, 隣近所の様子がわからない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「助け合いの学校in南区」を開催。地域で助け合い活動を行ううえでの心構えやマナーを学ぶ 受講者数 85名。修了者による意見交換会の実施。 地域の中で支援を要する人や家庭に対し、住民参加型の見守りや助け合いの活動を自治会単位で実施。30年度は、1自治会が実施しました。 <p>○地域包括支援センターの認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回「南区だより」に高齡者の相談窓口として情報を掲載。 茶の間訪問時やさわやかトーク宅配便開催時にPR。 医療機関等にポスターを掲示。 区内スーパーで行う高齡者出張相談会開催時にのぼり旗を使用してPR。 <p>○介護教室の参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活圏域毎(3圏域)に開催継続。 H30実績:実施回数 計8回 参加延人数 192人。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域力の再構築が求められており、一部の地域では、何とかしようという動きがあるが、全体的には、まだ、互助による助け合いの意識醸成が不足している。住民同士で支え合いのできる地域を広め、住民主体の支え合い活動の支援が必要。 緩やかな見守りを行う取り組み支援については、令和元年度より事業の拡大を図るべく、自治会単位及びコミ協単位へ実施範囲を拡充しました。 地域包括支援センターの認知度は少しずつあがってきてはいるものの、まだ不十分な状態である。 介護教室も各日常生活圏域で開催が可能となったが、参加人数にばらつきがあり、ニーズにあった内容とすることや、周知方法を再考する必要がある。 	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>概ね90%達成</td></tr> <tr><td>B</td><td>概ね75%達成</td></tr> <tr><td>C</td><td>概ね50%達成</td></tr> <tr><td>D</td><td>ほとんど実施せず</td></tr> </table>	A	概ね90%達成	B	概ね75%達成	C	概ね50%達成	D	ほとんど実施せず
A	概ね90%達成									
B	概ね75%達成									
C	概ね50%達成									
D	ほとんど実施せず									

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	高齢者の健康づくり・介護予防の推進		番号	内容
課題	生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齢者層の受診率、後期高齢者健診、各種がん検診は、低い状況	・健康の維持・増進のため、健(検)診受診率の向上や、子どもを含めたより良い生活習慣の確立に向け、地域における健康づくりの取り組みを進める。 ・保健会と自治会、コミュニティ協議会など関係機関と連携し、継続的に活動を展開。 ・健康づくりは、運動・食事・休養・こころの健康等様々な分野に及ぶため食生活推進委員、運動普及委員とも連携した健康づくりに取り組む。	①	高齢者の健康づくりと介護予防の推進
	生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される		②	地区保健会活動の推進

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	地区での健康づくり講座のフォロー講座実施(ウォーキング講座)	健康福祉課 地域住民	講座開催数	10回以上	2回	3回	A	27 ~ 32
①	ミニドック型集団健診の実施とコミ協での申し込み受付	健康福祉課 地域住民	特定健診受診者数	年4,000人	4,000人	2,917人(31.4月末)	B	28 ~ 30
①	はかろう体重！大作戦の実施	健康福祉課 地域住民	カード配布数	10,000枚	10,000枚	11,461枚	A	28 ~ 30
②	地区での健康づくり講演会の実施	健康福祉課 地区保健会	講演会開催数	40回以上	10回	13回	A	27 ~ 32
②	生活習慣病予防事業「元気アップ講座」の開催	健康福祉課 地区保健会	講座開催数	70回以上	14回	14回	A	27 ~ 32
②	市民活動支援事業(保健会だよりでの啓発や世代間交流など地区の実情にあった事業実施)	健康福祉課 地区保健会	事業実施数	60回以上	12回	13回	A	27 ~ 32

特記事項: 高齢者福祉・介護支援分野の小項目「高齢者の閉じこもりや孤立防止」については、地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
○生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の70歳代の受診率、後期高齢者健診、各種がん検診は、低い状況。 ・ミニドック型集団健診の実施により、特定健診受診者は増加しているが目標値までは達しなかった。 ○生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される。 ・はかろう体重！大作戦の実施により、区民の健康づくりへの気運は少しずつ高まってきた。事業のPRをコミュニティ協議会と一緒に実施し、目標を上回るカード配布となった。	・ミニドック型集団健診及び医療機関で受診する施設健診(特定健診)の受診をすすめるために、さらなるPRが必要。 ・生活習慣の改善では、はかろう体重大作戦の実施をコミュニティ協議会、学校・保育園を中心にPRしたが、まだ区民全体としての取り組みにはなっていないため、今後は区と一緒にPRに協力する方を募り、口コミによる参加拡大を図っていく。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	認知症の予防と対策		番号	内容
課題	認知症高齢者の増加	認知症予防と認知症の正しい理解を広める	①	認知症予防のための認知症予防出前講座の開催
	認知症の理解		②	認知症の理解を深め、介護者を支える地域づくり

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	認知症予防出前講座	健康福祉課 運動普及推進委員	教室実施回数	2回/年	2回	16回	A	30 ~ 32
②	認知症サポーター養成	健康福祉課 キャラバンメイト	周知回数	2回/年	2回	2回	A	27 ~ 32
②	キャラバンメイトのネットワークづくり	健康福祉課 キャラバンメイト	連絡会開催数	1回/年	2回	2回	A	27 ~ 32
②	認知症カフェの開催	地域包括支援センター, 白根健康センター, NPO法人ゆーわ	開催回数	4回/年	12回	12回	A	27 ~ 32

特記事項: 高齢者福祉・介護支援分野の小項目「高齢者の閉じこもりや孤立防止」については、地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○認知症高齢者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年度の地域包括支援センターやボランティアによる認知症カフェ立ち上げ支援後、開催が定例化され、29年度は隔月1回、29年5月より毎月1回の開催となる。 ・キャラバン・メイト連絡会、秋葉区でのキャラバン・メイト発足会の支援のほか、区よりメールによる情報発信を実施し、サポーター養成講座開催の助けに繋がった。 <p>○認知症の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座について、地域包括支援センター主催の会議を通じ各圏域ごとに周知を実施した。(H28年:24回、H29年:21回、H30年:23回)。自治会、老人クラブ、地域の茶の間、小学校などで実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ開催は定例化したが、運営メンバーと参加者の固定化が伺える。 ・より多くの地域の方々にサポーターとなってもらい、認知症を正しく理解するとともに認知症の人やその家族を温かく見守る体制が必要。 ・認知症サポーター養成講座開催の各種団体、小中学校への働きかけが必要。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域のボランティア活動の場発信と活動支援	・ボランティア活動の情報集約とネットワーク化 ・ボランティア養成と活動の場充実 ・ボランティア同士の情報交換の場設置による相互の理解、交流の深化	①	白根健康福祉センターのボランティア活動の拠点化
課題	ボランティア団体の連携が弱い		②	南区版ボランティア情報誌の発行
	次世代のボランティア育成		③	ボランティア情報の集約とネットワーク化
	あらゆる世代への福祉教育による住民の支えあい意識の醸成		④	ボランティア養成講座の開催と活動の場紹介
			⑤	福祉教育の充実
			⑥	災害ボランティアの育成

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	ボランティアルーム利用方法の検討及び利用性の向上	センター管理者 ボランティア・市民活動センター	情報の提供回数	随時	随時	随時	A	27 ~ 32
		健康福祉課	センター等から報告(随時)	随時	随時	随時	A	27 ~ 32
②	ボランティア情報誌(紙)の発行	ボランティア・市民活動センター	発行回数(年2回)	11回	年2回	年2回	A	27 ~ 32
③	ボランティア団体(代表)の交流会開催による情報集約、連携体制構築	ボランティア・市民活動センター	交流会開催回数(年2回)	11回	登録ボラ1回 中学生ボラ1回	登録ボラ1回 中学生交流会1回	A	27 ~ 32
④	講座、研修会(公民館主催を含む)の中で紹介	ボランティア・市民活動センター 公民館	講座等開催回数(年4回)	24回	講座 2回 研修 2回	講座 4回 研修 2回	A	27 ~ 32
⑤	区内小中学校の総合学習の時間を利用した福祉教育の推進・企業向け福祉教育	ボランティア・市民活動センター 小中学校、地元企業	実施回数(年16回)	96回	20回	学校 34回 大人向け 1回	A	27 ~ 32
⑥	災害ボランティアセンター設置訓練開催、災害ボランティアセンター検討委員会開催	ボランティア・市民活動センター、 災害ボラセン検討委員	・訓練(年1回) ・検討委員会(隔月1回)	72回	設置訓練 1回 検討会 6回	設置訓練(研修)3回 検討会6回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
○ボランティアのニーズに沿った研修会でボランティア同志の顔の見える関係づくりを行う。 ・長岡の防災施設等への視察研修を実施した際、移動中または施設見学の際にボランティア同志互いの活動について話を十分な時間があり、質の高い交流ができた。 ○大人向け福祉教育を拡充し企業なども視野に入れる。 ・建設業者の社員に向けて災害研修を行い、地域の安全を守る企業の課題に取り組んでもらえた。 ○災害ボランティアセンターの役割を地域住民に理解してもらう。 ・3回の災害ボランティア研修を実施、参加者である地区社協、コミ協を通して地域住民に災害ボランティアセンターの役割を伝えられた。	○新たなボランティア活動者を増やすための切り口を検討する情報収集が必要。 ○ボランティア活動者同士の交流を促す企画内容の充実。 ○南区災害ボランティアセンターの、センターとしてのスキルアップを目指す内容の研修を検討する。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域の茶の間・ふれあいいいきサロン活動の支援 (※高齢者の閉じこもりや孤立を防止)			
課題	傾向として参加者女性のみまたは女性がほとんどで、また自力歩行による会場への移動が困難となっている。	・徒歩で参加できる範囲内にある茶の間等のPR方法の検討、広報 ・世代間交流を図りながら茶の間等の参加者や支援者の勧誘方法を工夫する	①	地域の茶の間とサロン交流会開催
	10年～15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっている。		②	地域の茶の間とサロン運営研修会開催
	サロン・お茶の間独自開催できないところがある。		③	活動紹介や内容メニューを記載した冊子作成
	参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。(概ね10人以上の参加者が必要)		④	地域の茶の間とサロンの立ち上げ支援
			⑤	地域の茶の間とサロンでの世代間交流会の開催

※特記事項: 高齢者福祉・介護支援分野の小項目「高齢者の閉じこもりや孤立防止」については、地域づくり分野の小項目「地域の茶の間・ふれあいいいきサロン活動の支援」に包含して取組みます。

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①, ②	各種講座やサロン交流会及び研修会の実施	南区社会福祉協議会	ボランティア登録者数増	30名増	・交流会年1回 ・研修会年1回	交流会年1回 研修会年1回	A	27 ~ 32
②	男性を対象にした交流会の開催	南区社会福祉協議会 協力自治会	交流会開催	年2回	年2回	年1回	C	27 ~ 32
③	・南区サロン・お茶の間マップを年1回社協だよりに掲載(27年以前からの継続) ・サロン活動内容の広報 ・各お茶の間(サロン)会場に冊子を設置し、随時内容を更新	南区社会福祉協議会	・サロンお茶の間の情報を社協だよりに掲載 ・サロン活動内容等を広報誌に掲載 ・冊子は各お茶の間に設置	・広報紙掲載 ・6年で冊子作成1回	・広報紙掲載 ・冊子内容更新	社協だよりに南区内のMapを掲載	C	27 ~ 32
④	地域に合った茶の間づくり支援	地域の茶の間等 社会福祉協議会	立ち上げ要望に応じて相談	未設定	未設定	実績なし		28 ~ 32
⑤	世代間交流会の開催(年2か所)	地域の茶の間等 社会福祉協議会	新規交流会開催回数	10か所	2か所	1か所	C	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○傾向として参加者女性のみ又は女性がほとんどで、また自力歩行による会場への移動が困難となっている。</p> <p>・男性の参加者が少ないことへの対応策として、囲碁、将棋、ボードゲームの集いのような形で男性だけの茶の間を1回開催したが、集まりは芳しくなかった。</p> <p>○10年～15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっている。</p> <p>・茶の間活動で体操や健康づくりに取り組んでいる所が多く、代表者もお世話役も元気に取り組んでおられるので、現状では代替わりの声掛けが難しい。</p> <p>○参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。</p> <p>・参加者が10人に満たないところは、プログラムを工夫して参加を促したり、一方、助成金ありきの活動ではないと考えを転換している茶の間もある。</p>	<p>・男性参加者を増やす施策として、何かを作って食べるということを切り口に、集まる機会、外出の機会、交流の機会を検討したい。また、南区老人クラブ連合会とも連携して、参加してみたいような会を企画したい。</p> <p>・お茶の間活動において、参加者は場の利用者であってサービスの受け手ではないこと、お互いにできることを協力し合って運営する、という意識付けを高めていきたい。</p>

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成30年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり分野)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	避難行動要支援者支援体制の充実		番号	内容
課題	避難行動要支援者支援制度について、避難行動要支援者名簿登録対象者への周知不足 地域の助け合い意識の向上	避難行動要支援者名簿を活用した地域住民による 助け合いの体制づくり	①	自主防災訓練を通しての要支援者支援訓練の実施
			②	災害ボランティアの育成

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	各自主防災会での防災訓練における要支援者訓練の実施	各自主防災会	訓練実施率	100%	60%	34.7%	C	27 ~ 32
①	避難行動要支援者名簿と登録対象者の確認	自治会 各自主防災会	区が名簿更新時に自治会等へ 確認要請する。	全団体	全団体	全団体(賛同団体)	A	27 ~ 32
①	地域の避難行動要支援者登録対象者への意識付け	自治会 各自主防災会	自治会研修会で確認 (年1回)	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
②	高校生防災ボランティア育成研修会の開催	南区総務課 白根高校	研修会開催回数 (年2回)	10回	2回	2回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○避難行動要支援者支援者名簿制度について、避難行動要支援者名簿登録対象者への周知不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会・町内会長説明会で自治会・町内会長が交代する場合に、避難行動要支援者名簿をしっかりと引き継ぐよう説明した。また、名簿更新時(8月・12月)に避難行動要支援者名簿を引継ぎ漏れがないよう全部差し替えて送付し、要支援者の確認を依頼。 <p>○地域の助け合い意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自主防災会の自主防災訓練での市の推奨訓練項目を満たした避難行動要支援者訓練の実施率が34.7%(23自主防災組織中8組織が実施)であったが、区の総合防災訓練でも、避難行動要支援者訓練を取り入れ、要支援者の確認方法等は自主防災会で任せる形で実施し、要支援者対策に努めた。 地域防災の担い手として期待される白根高校生徒を対象とした防災ボランティア講座に、近隣の自主防災会、自治会、防災士にも参加していただき、地域の助け合い意識の向上に努めた。また、白根高校生徒には、白根地区中部の自主防災訓練の避難所開設補助としての経験を積んでいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会・町内会の役員交代時に避難行動要支援者名簿の引継ぎが重要になるため、説明会等で周知や、名簿の全部差し替えなど引き続き行っていくことが必要。 避難行動要支援者訓練は、自主防災組織活動助成の市推奨訓練としての位置づけとなっているが、実施の有無は、自主防災組織によりばらつきがあるため、引き続き実施率向上に向けた啓発が必要。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず